

母親の育児意識に関する研究

—育児安定タイプの自由記述—

幸 順子・浅野 敬子*

Factorial Analysis of Behavioral and Emotional Representation in Maternal Activities by a Questionnaire Survey: Examination of Free Descriptive Answers Given by Mothers with Little Emotional Stress in Nursing Children

Junko YUKI and Keiko ASANO

1. 問 題

家庭における育児機能の低下や子育て困難が指摘され、育児支援の必要性が主張されている。育児ストレスや困難については、子どもの発達障害や母親のメンタルヘルスとの関連性が指摘されてきたが、木村・西内・平野（小野）・高田（2006）¹⁾らは、家族のサポートがそうした育児ストレスの低減に有用であることを指摘した。また、柏木（2008）²⁾は、現代日本社会における「孤独な子育て」の現状を踏まえ、子育ての社会化、つまり家族以外の社会的支援の必要性を主張し、菅野・田矢・柏木（2003）³⁾は、妻の就労や自己実現の感覚が肯定的な育児意識と関連していることを指摘した。櫻谷（2003）⁴⁾は上記に加え、子どもや子育てへの経験的理解の乏しさと育児不安や困難との関連性を示し、他にも、単なる育児参加にとどまらない夫の父親としての成熟の課題や、就労と子育てをめぐる女性の葛藤や就労支援の不十分さなどの課題もあることを指摘している。

育児不安や困難は、子どもや母親の精神保健上の問題だけでなく、養育者を含む家族へのサポート体制、ライフサイクルの変化にともなう女性自身の生き方をめぐる葛藤など、様々な要因が絡みあってもたらされることが指摘されている。したがって、育児支援策については、家庭の養育者の意識、置かれた状況、抱える問題、社会状況とのかかわりのあり方など、育児不安や困難を生み出す要因を明確化し、ニーズに応じて立案される必要がある。

筆者らは、育児意識を育児情報や父親以外の人間関係など、より広範な社会的関係の中でとらえることとし、養育環境の状況や問題について実証的に明らかにすることを目的として、保育園児（3～5歳）・幼稚園児・子育て支援利用（子どもの年齢範囲0～3歳）の母親を対象とした「育児意識」に関する質問紙調査を行ってきた。分析結果として、浅野・高橋・時安（2006）⁵⁾、浅野・百澤・山本（2008）⁶⁾、幸・浅野（2010a）⁷⁾、幸・浅野（2010b）⁸⁾、幸・浅野（2012）⁹⁾、浅野・幸・時安（2013）¹⁰⁾、幸・浅野（2014）¹¹⁾において、母親の育児意識に関する因子構造の特徴の検討を行った。

これまでの研究成果として、就労する母親と専業主婦の育児意識に関して①「子どもに対する否定的な感情・行動傾向」、②「社会的育児支援資源の利用」、③「育児知識・技能について

* 至学館大学

の不足感」、④「夫婦間の協力関係維持」、⑤「子どもからの自由」などの因子が共通して抽出され、より年長の子どもの育児中の母親に「子どもに対する否定的感情・行動傾向」が強い傾向があることが明らかにされた。また、子育て支援利用の母親を対象に「子どもに対する否定的感情・行動傾向」の強い「育児ストレスタイプ」の事例を分析したところ、少数だが、子育てに関する情報不足や他者依存傾向との関連性が示唆された。

2. 目 的

本研究では、保育園児（3～5歳）、幼稚園児、子育て支援利用（子どもの年齢範囲0～3歳）の全グループを総合して因子分析を行い、育児意識構造を明らかにした中から子育て支援利用グループの因子得点に注目し、子どもへの否定的感情・行動傾向の低い、育児安定タイプの自由記述について検討することを目的とした。

3. 方 法

質問紙

浅野ほか（2006）⁵⁾にて使用した質問項目および自由記述部分を、幸・浅野（2010a）⁷⁾、幸・浅野（2010b）⁸⁾では対象者に合わせて一部改変した。質問紙作成については浅野ほか（2006）⁵⁾に提示されている。なお、質問項目の改変は、部分的な表現上の改変であり、浅野ほか（2006、2008）^{5) 6)}の結果と合わせて分析するにあたって差し障りのない程度の変更である。本研究で対象とする子育て支援利用グループに使用した質問紙の項目内容は、幸・浅野（2010a）⁷⁾に示した通りである。

基礎資料

浅野・高橋・時安（2006）⁵⁾、浅野・百澤・山本（2008）⁶⁾、幸・浅野（2010a）⁷⁾、幸・浅野（2010b）⁸⁾による、愛知県内O市公立保育園園児（3～5歳）、C市私立幼稚園園児、K市公立児童館親子教室参加（子どもの年齢範囲0～3歳）の母親を対象とした質問紙調査への回答545（うち保育園112、幼稚園283、子育て支援150）に基づく。

分析方法1

幸・浅野（2010b）⁸⁾による全グループを総合した因子分析の結果に基づき、子育て支援グループ150名（子どもの年齢範囲0～3歳）についての5因子（因子1：「子どもに対する否定的な感情・行動傾向」、因子2：「社会的育児支援資源の利用」、因子3：「育児知識・技能についての不足感」、因子4：「夫婦間の協力関係維持」、因子5：「子どもからの自由」）それぞれの因子得点を算出した。各因子の意味する内容を表1に示す。

分析方法2

全事例の各因子の因子得点と自由記述を対比させ、結果を明らかにした。自由記述の質問内容は表2の通りである。

表1 各因子の内容

	因子の内容
因子1	子どもに対する否定的な感情・行動傾向
因子2	社会的育児支援資源の利用
因子3	育児知識・技能についての不足感
因子4	夫婦間の協力関係維持
因子5	子どもからの自由

表2 自由記述の質問内容

<p>1. 子育てをしていて将来どのようにしていけばいいのか心配に思うことはありますか。それは、どのようなことですか。</p> <p>2. 最近, 子育て支援センター, 育児サークル, ボランティアや NPO による広場など, さまざまな育児支援があります。他の支援に参加したことはありますか? ○をつけてください。(ある ない) 参加されたことがある場合それはどのような活動ですか?</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> [] </div> <p>3. 今後どのような育児支援が必要だと思いますか。</p> <p>4. 調査に対するご意見がありましたらお書きください。</p>

4. 結 果

因子得点は平均値 = 0、標準偏差 = 1とした。因子1 : 「否定的感情・行動傾向」の得点の高低に注目し、因子1の因子得点が-1.5以下(34/150事例)を育児安定タイプとした。育児安定タイプ事例の因子得点と因子得点から見た質問項目への回答パターン特徴(因子得点が1.0以上の因子)を表3に示した。さらに、自由記述の回答内容をカテゴリー分けした結果を表4に示し、対象となる子どもの属性と自由記述の回答及び因子得点から見た質問項目への回答パターン特徴を表5に示した。これらのうち、因子得点が-2.0以下(13事例)の高い育児安定事例について*を付けて示した。

対象となる子どもの基礎情報と自由記述欄への回答は以下の通りである。(表5参照)

表3 育児安定タイプ事例(因子1の因子得点-1.5以下)の因子得点(*因子得点1.0以上)

事例	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	回答パターン特徴
1	-1.88	*1.09	0.00	-1.84	*1.04	*社会的育児支援資源利用 *子どもから自由
**2	-2.17	0.82	*1.20	0.14	-0.17	*知識技能不足
3	-1.78	0.00	0.92	*1.12	-0.87	*夫婦間協力
4	-1.90	-3.04	-0.75	*1.88	-2.81	*夫婦間協力
**5	-2.65	-0.30	*2.17	-0.76	0.92	*知識技能不足
**6	-2.30	*1.33	-0.35	0.27	0.65	*社会的育児支援資源利用
7	-1.83	*1.04	*1.61	0.88	0.84	*社会的育児支援資源利用 *知識技能不足
**8	-2.63	-3.64	-0.08	-1.01	-1.76	
9	-1.81	-0.42	-0.20	*1.21	-1.95	*夫婦間協力
**10	-2.10	-2.01	*2.25	-1.16	-0.37	*知識技能不足
11	-1.58	*1.67	0.16	0.63	-1.37	*社会的育児支援資源利用
**12	-2.00	-0.05	-0.69	*1.46	-1.77	*夫婦間協力
**13	-2.38	0.80	0.65	0.36	0.68	
**14	-2.43	0.97	-0.66	0.69	0.34	
**15	-2.10	0.08	0.77	*1.51	-2.39	*夫婦間協力
16	-1.66	0.43	*1.38	0.82	-0.30	*知識技能不足
17	-1.70	-0.55	-0.25	-1.31	-0.91	
18	-1.60	-1.14	*1.33	*1.13	-1.67	*知識技能不足 *夫婦間協力
19	-1.53	-0.52	*2.45	0.67	0.36	*知識技能不足
20	-1.90	0.69	*2.14	0.28	0.97	*知識技能不足
21	-1.93	0.03	-0.15	-1.42	-1.23	
22	-1.83	-1.33	*1.76	-0.74	*1.18	*知識技能不足 *子どもから自由
23	-1.92	-0.81	0.26	*1.67	-2.40	*夫婦間協力
24	-1.51	*1.17	-0.86	0.87	0.44	*社会的育児支援資源利用
**25	-2.13	-0.07	*2.05	-0.56	-1.61	*知識技能不足
**26	-2.29	-0.06	-0.16	-0.64	0.18	
**27	-2.48	0.27	0.42	-2.34	0.84	
**28	-2.00	-3.60	-0.03	-0.82	-1.77	
29	-1.67	0.70	0.43	-1.68	-1.55	
30	-1.84	0.02	0.43	-0.08	-0.05	
31	-1.95	*1.13	-0.16	0.84	0.66	*社会的育児支援資源利用
32	-1.76	-0.17	0.19	*1.28	*1.00	*夫婦間協力 *子どもから自由
33	-1.57	0.72	*1.83	-2.71	0.68	*知識技能不足
34	-1.56	-0.16	0.37	-0.93	-0.54	

事例の**は、因子1の因子得点が-2.0以下の高安定タイプ

表4 自由記述内容のカテゴリー分け（育児安定タイプ34事例データ分）

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	育児安定群 延べ事例数
㊦教育・親子関係	①教育	習い事、保育園の探し方、社会問題の影響、教育方針、教育観	7
	②しつけ	生活習慣、善悪の判断、叱り方、注意の仕方、褒め方、しつけが正しいかどうか	4
	③子どもへの関わり方・対応、親子関係	関わり方、成長の援助の仕方	4
㊧子どもの成長発達	④心身の成長発達	内面の成長、思春期の心の状態、反抗期の対応、人の道を外れないよう、落ち着きのなさ、言うことを聞かない、成長の援助方法、子どもの心身の成長について行けるか	2
	⑤子どもの人間関係(親子関係以外)	いじめ	1
	⑥子どもの将来の職業		1
	⑦健康		0
	⑧経済面	教育費、家計	1
㊨生活	⑨仕事との両立		1
	⑩生活環境		1
	⑪家族計画		0
㊩なし、わからない等		なし、考えていない、わからない、色々、ないわけではないがなるようになる	0
㊪NA(no answer)			18

※㊦㊩は全150事例中に見られたカテゴリーであるが、育児安定タイプでは事例数は0であった。

※小カテゴリーの記述は150事例全体の内容を含む。

母親の育児意識に関する研究

表5 育児安定タイプ事例（因子1の因子得点-1.5以下）の自由記述（―は無回答）と質問項目への回答パターン特徴

事例	分類 カテゴリー	子育てをして将来心配なこと	他の子育て支援への参加	今後必要な育児支援	出生 順位	年齢	性別	質問項目への回答 パターン特徴
1	②	しつけをしても嫌がるとき、外でもちゃんとできるのかなあって	〇〇教室。同じような育児サークルみたいな感じ	月1回くらいしかないので、月3回あるとうれしい	1	1Y	♂	社会的育児支援 資源利用/子ども から自由
*2	①②	子どものしつけ、教育をしつかりたい反面、しすぎてはいけないので、その境界線が難しいと感じています	図書館のお話会、児童センターの親子教室	月齢ごとに分かれた親子教室の実施（今もあります）育児やしつけについて教えてくれる場（何ヶ月になるとハイハイに向けこんな運動するといいですヨ等教えてくれる場）	1	9M	♂	知識技能不足
3	①⑤	習い事はいつから始めたいのか、お金の面	ない	—	1	6M	♀	夫婦間協力
4	—	—	地域の子育てサロン	働く母親への支援	1	6M	♀	夫婦間協力
*5	—	—	—	—	1	7M	♀	知識技能不足
*6	—	—	子育て支援センター	—	1	1Y1M	♀	社会的育児支援 資源利用
7	—	—	ある	—	1	1Y1M	♀	社会的育児支援 資源利用/知識技能不足
*8	①	社会がどんどん変化するなか、どのように育てていけばいいのか	ない	市内でももっと頻回にこのような場を設けてほしい	1	6M	♀	
9	—	—	〇〇教室	—	1	6M	♀	夫婦間協力
*10	—	—	—	地域でママさん同士お話できる場所	1	7M	♂	知識技能不足
11	①	保育園の探し方	子育て支援センター	子育てでは最初の（一才くらいまで？）とても孤独なので、その時期に交流会のようなものがもっとあればいいと思う	1	11M	♀	社会的育児支援 資源利用
*12	—	—	ない	他の子といっしょに遊ばせること	1	7M	♂	夫婦間協力
*13	—	—	ない	—	1	10M	♂	
*14	—	—	他の〇〇教室	—	1	6M	♂	
*15	—	—	保育園の子育て支援	—	1	8M	♀	夫婦間協力
16	③	子どもに対してどこまで干渉すべきか	市の育児イベント	—	1	7M	♂	知識技能不足
17	①	義母（主人の家）との教育方針の違い。プレッシャーであり窮屈。劣等感すら感じることがある。「義母の子育ては終わっているのだ」と言いにくくなることもある	ない	母親の精神的肉体的負担を和らげるようなもの	1	9M	♀	
18	—	—	ない	—	1	—	—	知識技能不足/夫婦間協力
19	③④	成長の手助けをどうするのが一番かわからない	ない	もっとこういう機会が多いといい	1	—	—	知識技能不足
20	③④	子どもの体や心の成長についていけるか不安	他市の□□クラブ	駐車場があって車で行ける子育て広場を増やしてほしい	1	1Y3M	♀	知識技能不足
21	⑨	仕事との両立	ない	—	1	7M	♂	
22	—	—	ある	—	1	9M	♂	知識技能不足/子どもから自由
23	⑥	将来の職業	ない	—	1	6Y	♂	夫婦間協力
24	—	—	ある	—	1	1Y2M	♀	社会的育児支援 資源利用
*25	②	すべての面でしつけ	ない	—	1	1Y2M	♂	知識技能不足
*26	—	—	ある	—	1	1Y5M	♂	
*27	—	—	—	—	3	3Y	♀	
*28	③	親と子どもの位置関係（子どもにとってよい親子関係）	総合福祉センター、地域の子育てサークル	—	1	—	—	
29	—	—	ない	子育て支援センター、サークルが増えること。児童館の増加、相談センターの増加	1	3Y3M	♂	
30	—	—	ない	—	1	2Y3M	♀	
31	—	—	ボランティアによるリトミック	—	1	2Y1M	♀	社会的育児支援 資源利用
32	①⑩	有害サイト（パソコン等）の規制がないこと（親がどうすれば一番よいのか）	ない	—	1	1Y2M	♀	夫婦間協力/子どもから自由
33	②⑤	まわりの子どもの接し方、しつけ	ない	—	1	—	—	*知識技能不足
34	①	夫を死別しているのか、どのように話して教えればいいのか。父親の存在について。	ない	—	1	—	♀	

※「事例」の*は因子1の因子得点-2.0以下の高い育児安定事例

（１）基礎情報について（34事例中）

① 対象児の年齢

0歳：16事例、1歳：8事例、2歳：2事例、3歳：2事例、6歳：1事例、無回答：5事例

② 出生順位

第1子：33事例、第3子：1事例

③ 性別

男児：13事例、女児：17事例、無回答：4事例

（２）自由記述の回答（34事例中）

① 子育てをされていて将来心配に思うこと（延べ事例数）

34事例中16事例に回答が見られた。18事例は無回答。因子1の因子得点が-2.0以下の13事例中4事例に回答が見られた。（表3、4参照）

内容の内訳は次の通りである。しつけや教育・親子関係に関して心配に思う母親が半数程いる事が明らかになった。

㊦教育・親子関係など：15事例

- ・教育（習い事、関わり方、社会問題の影響、教育方針、成長の援助の仕方）：7事例
- ・しつけ：4事例
- ・子どもへの関わり方・対応、親子関係：4事例

㊧子どもの成長発達：4事例

心身の成長発達（成長の援助方法、子どもの心身の成長について行けるか）2事例

子どもの人間関係（まわりの子どもの接し方）：1事例

子どもの将来の職業：1事例

㊨生活：3事例

- ・経済面（教育費）：1事例
- ・仕事との両立：1事例
- ・生活環境：1事例

事例ごとの記述は次の通りである。

事例1：しつけをしても嫌がるとき、外でもちゃんとできるのか。

事例2：子どものしつけ、教育をしっかりしたい反面、しすぎてはいけなないので、その境界線が難しいと感じている。

事例3：習い事はいつから始めた方がいいのか、お金の面。

事例8：社会がどんどん変化するなか、どのように育てていけばいいのか。

事例11：保育園の探し方。

事例16：子どもに対してどこまで干渉すべきか。

事例17：義母（夫の家）との教育方針の違い。プレッシャーであり窮屈。劣等感すら感じることがある。「義母の子育ては終わっているのだ」と言いたくなることがある。

事例19：成長の手助けをどうするのが一番かわからない。

事例20：子どもの体や心の成長についていけるか不安。

事例21：仕事との両立

事例23：将来の職業

事例25：すべての面でのしつけ

事例28：親と子どもの位置関係（子どもにとってよい親子関係）

事例32：有害サイト（パソコン等）の規制がないこと（親がどうすれば一番よいか）

事例33：まわりの子どもの接し方、しつけ

事例34：夫を死別しているので、どのように話して教えれば良いのか。父親の存在について。

② 他の育児支援への参加の有無とその内容

他の育児支援への参加については、34事例中、ありが16事例、なしが15事例、無回答が3事例であった。因子1の因子得点が-2.0以下の13事例中6事例に他の育児支援への参加があった。

半数近い母親に、複数箇所の子育て支援への参加経験があることが示された。

事例3、8、12、13、17、18、19、21、23、25、29、30、32、33、34：ない

事例7、22、24、26：ある

事例1：〇〇教室（市主催の乳幼児親子教室）、同じような育児サークル

事例2：図書館のお話会、児童センターの親子教室

事例4：地域の子育てサロン

事例6、11：子育て支援センター

事例9、14：〇〇教室（市主催の乳幼児親子教室）

事例15：保育園の子育て支援

事例16：市の育児イベント

事例20：他市の□□クラブ（乳幼児親子クラブ）

事例28：総合福祉センター、地域の子育てサークル

事例31：ボランティアによるリトミック

③ 今後必要な育児支援

34事例中11事例に回答があった。23事例は無回答。因子1の因子得点-2.0以下の13事例中4事例に回答があった。

子育て中の親子の交流、子ども同士の交流および働く母親への支援のニーズがあることが示された。

事例1：月1回くらいしかないので、月3回あるとうれしい

事例2：月齢ごとに分かれた親子教室の実施（今もありますが） 育児やしつけについて教えてくれる場（何ヶ月になるとハイハイに向けこんな運動するといいですヨ等教えてくれる場）

事例4：働く母親への支援

事例8：市内でももっと頻回にこのような場を設けてほしい

事例10：地域でママさん同士お話できる場所

事例11：子育ては最初の1年がとても孤独なので、その時期に交流会のようなものが増えればいい

事例12：他の子といっしょに遊ばせること

事例17：母親の精神的肉体的負担を和らげるようなもの

事例19：もっとこういう機会が多いといい

事例20：駐車場があって車で行ける子育て広場を増やしてほしい

事例29：子育て支援センター、サークルが増えること。児童館の増加、相談センターの増加

5. 考 察

（1）自由記述から伺われる育児安定タイプの全体的特徴

① 他の育児支援への参加

育児安定タイプの自由記述について検討したところ、半数近い母親は、何らかの複数カ所の子育て支援への参加経験があることが示された。

② 子育てをしていて将来心配に思うこと

心配に関する記述の内容をカテゴリー分けすると、無回答が半数以上でもっとも多く、次に半数近い母親が、教育やしつけ、子どもとの関わりについて心配をしている事が明らかになった。子どもの成長発達、生活についての心配も少数だが認められた。（表4参照）

教育やしつけ、子どもとの関わりについての心配の内容を詳しく見ると、「習い事はいつから始めたらいいのか（事例3）」、「保育園の探し方（事例11）」など、多くはしつけや具体的な教育の方法に関する心配事であるが、より安定の高いタイプ（*の13事例）の記述の中には「子どものしつけ、教育をしっかりしたい反面、しすぎではいけないので、その境界線が難しいと感じている（事例2）」「社会がどんどん変化するなか、どのように育てていけばいいのか（事例8）」「親と子どもの位置関係（子どもにとってよい親子関係）（事例28）」など、親自身の生き方や教育観に関わる、より表層的ではない内容を示すものがあつた。

③ 今後必要な育児支援

記述が見られたのは、約3分の1であるが、3分の2が0～1歳児という子どもの発達段階を考えると、まだ先を予想しにくいことが想像される。記述の内容では、「他の子といっしょに遊ばせること」など、明確に子どもへの支援を求める内容も見られたが、ほとんどが親子あるいは母親への支援を求める内容であり、幸・浅野（2014）の育児ストレスタイプと同様に、3歳以下の子どもを持つ育児安定タイプの母親の場合も、親自身への支援をより多く求めている様子が伺われた。

（2）育児安定タイプの自由記述と質問項目への回答パターン特徴の関連

幸・浅野（2012）⁹⁾では、因子1の因子得点が-1.0以下の、子どもへの否定的感情行動傾向が比較的低い59事例について分析したところ、子どもからの自由がない場合でも①社会的育児支援資源を多く利用し（12事例、因子2の因子得点は1.0以上）、②夫婦間の協力関係が得られる（12事例、因子4の因子得点は1.0以上）ことにより、安定的に育児をしていると思われる事例が、23事例（内1事例は①②重複、全事例の約40%）あることが明らかにされた。0～3歳という、より年少の時期においては、家庭内外での支援や協力が、母親の子どもに対する情緒的・行動的安定とかかわり合いが深いことが示唆された（表6）。

表6 幸・浅野(2012)で見いだされた育児安定タイプの特徴(因子1の因子得点-1.0以下)

育児安定のタイプ	事例数(全59事例中、重複1)
社会的育児支援資源の利用多	12
夫婦間の協力関係維持	12

本稿で新たに注目した、因子1の因子得点が-1.5以下の育児安定タイプ34事例について見ると、先の研究と同様に、①社会的育児支援資源を多く利用していたり（因子2の因子得点は1.0以上）、②夫婦間の協力関係がよく得られていたり（因子4の因子得点は1.0以上）、③子どもからの自由が大きかったりする（因子5の因子得点は1.0以上）事例が合わせて15事例（約44%、重複は数えず）あることが明らかになり（表2）、家庭内外での支援・協力といった対人的関わりがあることが、安定した育児の重要な要因の一つであることが示唆された。さらに因子1の因子得点が-2.0以下の、更に安定性の高い育児（子どもへの否定的感情・行動傾向の極めて低い）タイプ13事例について見てみると、社会的育児支援資源を多く利用している事例は1事例、夫婦間の協力関係がよく得られている事例は2事例にとどまり、6事例には特記すべき回答パターン特徴は見られなかった。これら13事例については、少ない事例数であるので、慎重に議論をする必要があるが、自由記述について見てみると、考察（1）で指摘したように、「子どものしつけ、教育をしっかりしたい反面、しすぎてはいけなくて、その境界線が難しいと感じている（事例2）」「社会がどんどん変化するなか、どのように育てていけばいいのか（事例8）」「すべての面でのしつけ（事例25）」「親と子どもの位置関係（子どもにとってよい親子関係）（事例28）」以外の9事例は無回答であった。つまり、より安定した育児の事例では、特に、子育ての心配をしていないか、していても具体的に表層的な方法論的疑問ではなく、親自身の生き方や教育観に関わる内容を示すものであった。ここには、目先の問題に捉われてありのままの子どもを見失うことなく、本質を見据えて子育てしていけるだろうかといった、親の覚悟が示されているようにも思われて興味深い。

育児支援においては、親子が集える広場の提供に始まり、子育ての具体的なノウハウの提供、傾聴と共感による不安軽減と親としての自信回復などが強調されがちであるが、高い育児安定タイプの分析結果からは、社会と子どもを見据えて自らの子育てを振り返ったり対話するような機会が持てること、つまり「対話や関係形成による洞察」を目指すタイプの教室なども安定的育児に必要な支援の一つであることが示唆された。事例数が限られているため一般論としては断定しにくい、このように事例の詳細を検討することで、乳幼児期（主に0～3歳）の育児支援のあり方を検討する一助となると考えられる。

今後の課題として、子育て支援利用の150事例の自由記述の内容を検討し、乳幼児期（主に0～3歳）の子どもを持つ母親の子育てに関する心配事やニーズをより詳細に分析することで、育児ストレスタイプや育児安定タイプの特徴をより明確にし、幅広い支援の可能性を探る事ができるのではないかと考えている。

6. 要 約

子育て支援を利用する母親150事例（対象となる子どもの年齢範囲は、おおよそ0～3歳）中、因子1の因子得点が-1.5以下の育児安定タイプの母親34事例について自由記述の分析を行った。

半数近い母親が、他の子育て支援への参加経験があることが示された。また、半数近い母親が、将来的な子育てについて心配事があるとしていた。その多くは教育問題や親子関係についての心配であったが、子どもの成長発達、生活への心配事も若干見られた。

さらに、因子1の因子得点が-2.0以下の高い育児安定タイプ13事例について検討したところ、9事例は将来的な子育てへの心配を示さず、4事例は表層的ではない教育観に関わる内容を回

答していた。

Abstract

We examined free descriptive answers given by the mothers of 34 cases whose score of factor1 was -1.5 and under (which indicates the stability in parenting). Nearly half of them had participated in parenting support programs. About half of them were concerned about education and parent-child relationship in the future.

We also examined the answers given by the mothers of 13 cases whose score of factor1 was -2.0 and under (which indicates a high stability in parenting). Nine mothers were free from worry and 4 mothers seemed to be thinking deeply about education.

7. 謝 辞

調査にご協力下さった春日井市子育て子育て総合支援館（かすがいげんきっこセンター）関係者の皆様に心より感謝します。

8. 文 献

- 1) 木村一絵・西内恭子・平野(小原)裕子・高田ゆり子, 母親の育児意識を構成する概念とそれに関連する要因. 九州大学医学部保健学科紀要, 第7号, pp.69-76, (2006)
- 2) 柏木恵子, 子どもが育つ条件—家族心理学から考える. pp.38-102, 岩波新書, (2008) 3) 菅野幸恵・田矢幸江・柏木恵子, 父母の子育てへの感情はどのように異なるか—子ども・子育てに対する感情への規定院の検討—, 発達研究, 第17巻, pp.39-52, (2003)
- 4) 櫻谷眞理子, 今日の子育て不安・子育て支援を考える～乳幼児を養育中の母親への育児意識調査を通じて, 立命館人間科学研究, 第7号, pp.75-86, (2003)
- 5) 浅野敬子・高橋正教・幸 順子: 保育園に子どもを預ける母親の育児意識構造. 中京女子大学研究紀要 40, pp.49-58, (2006)
- 6) 浅野敬子・百瀬真美・山本裕子・高橋正教・時安和之, 母親の育児意識に関する研究: 幼稚園に子どもを預ける母親の育児意識構造. 中京女子大学研究紀要42, pp.115-123, (2008)
- 7) 幸 順子・浅野敬子, 母親の育児意識に関する研究: 子育て支援親子教室参加者の育児意識構造. 名古屋女子大学紀要第56号 (人文・社会編), pp.199-210, (2010a)
- 8) 幸 順子・浅野敬子, 母親の育児意識: 子育て支援利用の母親について. 日本保育学会第63回大会発表論文集, (2010b)
- 9) 幸 順子・浅野敬子, 母親の育児意識に関する研究: 子育て支援利用者の調査回答パターン分析. 名古屋女子大学紀要第58号 (人文・社会編), pp.187-195, (2012)
- 10) 浅野敬子・幸 順子・時安和之, 母親の育児意識に関する調査資料の基礎研究: 保育園児・幼稚園児・子育て支援教室利用の母親について. 至学館大学研究紀要47, pp.1-10, (2013)
- 11) 幸 順子・浅野敬子, 母親の育児意識に関する研究: 育児ストレスタイプの自由記述. 名古屋女子大学紀要第60号 (人文・社会編), pp.45-54, (2014)